

どうかんきょう

真宗大谷派同和関係寺院協議会  
2022年12月31日発行

同関協だより

第65号

ニンゲン  
ワスレテ  
イマセンカ

第65号  
主な内容

P 2

総会報告

P 4

2021年度事業報告・決算

P 5

2022年度事業計画・予算

P 6

第2回「是施陀羅」問題を考える奉仕団

P 8

美作騒擾150回忌

P 11

小森龍邦さんを偲ぶ会 宗務総長追悼スピーチ

p 12

SHINGO★西成さんメッセージ

Shinran  
S500

2023年4月12日 「同関協」慶讃法要 記念大会 & ライブ

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃テーマ

あなた 人間 忘れていませんか？  
共に、朋に、友に生き遇いましょう

Shinran  
S500

人間を忘れない！ 2023/4/12 16:00～ SHINGO★西成 with DJ FUKU ライブ

東本願寺御影堂門前・市民緑地帯／参加費無料

キンモクセイの香りが  
大阪、下町、路地まで広がり、  
「また、この季節がきたね！」  
とオレンジ色が好きなオカンが  
ココにいたら言うてるなあど  
やさしくなれた中で、  
コレを書いてます、まいど。

先日、東本願寺におじゃましました。  
お寺が、さらにみんなの出会う場所に  
なればいいですね。  
お寺が、もう一度みんなの「居場所」に  
なればいいですね。  
ガキの頃、お寺の存在を近くに感じなかった  
ボクはなんかよう分からなかったがさみしくな  
かった。  
よう考えたら近所のオッチャン、オバちゃんが  
ボクのお寺でした。  
家賃4,100円の高速道路の下の長屋で育ちま  
したが、いつも誰かが声かけてくれるし、エエ  
ことも良くないことも

「あんなことあってん！」  
「こんなことあってん、」  
と話を聞いてくれる存在が年齢性別、人種  
職業問わずそばにいてくれました。  
ときには、オカンがボクの面倒を見れない  
ときは、隣りの家族が、向かいのオッチャン  
が、スナックやってるオバちゃんがボクに何  
不自由感じさせず一緒にいてくれました。  
「街づくり」は「ヒトづくり」から。  
親や家族が子供を育てられなければ、街が  
子供を育てる。くらのフトコロの深い街が  
地元でよかったなあホンマ。  
「どうせオレなんか、」  
「どうせボクなんか、」  
が口癖だったボクが、自分みたいないヒトが  
いたら大丈夫、大丈夫やで！  
と伝えたい。助けたい。ひとりぢやうで。  
って想いを言葉紡いで歌にしました。  
ボクたちが「生きる」について  
向き合うことこそ、救える命が  
あると出遇いと別れから知りました。

「命」は「時間」。  
「命」と言えばえらい重く感じるなら、  
「時間」を大切に、です。  
「時間の余裕」は「心の余裕」  
につながります。  
その余裕、つまり「時間」と「心」  
をどう使うか？  
「人間として再確認」  
する時間に使いましょう！  
2023年。4月。東本願寺にて。  
「門前ライブ」させてもらいます。  
喜怒哀楽を喜怒哀ラップにしましょう。  
門も心も開放しましょう、一緒に。  
失敗、挫折を知ったヒトが、いまこそ  
立ち上がって声にする時です。  
みなさんとお会いできるのを  
尊敬してる方のお言葉をお借りして  
お伝えしますと、  
「うれしく、たのしく、おごそかに、」  
お待ちしております、おおきに。  
SHINGO★西成(昭和レコード)



#### SHINGO★西成

”昭和の香り”色濃く残る大阪のイルなゲット＝ドヤ街「西成」・釜ヶ崎は三角公園近くの長屋で生まれ育つ。独自のHip Hop、Reggaeスタイルで、『SHINGO★西成』というジャンルを確立した。これまで幅広い客演の数々がそれを物語り、いまや大阪のフッドスターとなった。SHINGO★西成が主催した”米カンパライブ”では、炊き出し用の米を約3t集めて、すべて寄付した。2021年”昭和レコード”の看板を引き継ぎ、2022年7枚目のアルバム「独立記念日」をリリース。日本、関西、大阪、地元西成から世界に向けて魂の叫びを響かせる。

#### 編集後記

来年二〇二三年は、いよいよ宗祖御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要が本山において勤まる。「同関協」の慶讃事業として、慶讃法要期間中である二〇二三年四月十二日に「記念大会」を開催する予定で、目下準備を進めている。それに先駆けて、二回の「是施陀羅」問題を考える奉仕団を開催した。「記念大会」の場で「同関協」としての「是施陀羅」問題に対する基本姿勢をどのように表明し、これからの方針を打ち出すのかを議論した。「記念大会」での表明が、「同関協」のみならず宗門全体に広がり、經典・聖教をもう一度学び直す契機として発信できれば幸いである。また、二〇二四年、「同関協」は発足五十周年を迎える。差別のない世界を願って立ち上がったこの組織の五十年のあゆみを総括し、そして今後何を運動の原理として活動していくのか、本号の編集会議でも議題としてあがった。発足当初と比べて会員のあり方も変わってきた中で、これからの「同関協」の存在意義について、様々な立場の人を交えてたずねていきたい。

編集委員 浜口和也

ご意見・ご感想はこちら



<https://forms.gle/rr2NjVCPMdoBCTHe9>

『同関協だより』編集委員会では、ご意見・ご感想を募集しています。QRコードをスマートフォンで読み取っていただければ、フォームが開きます。

#### 同関協だより 第65号

発行日 2022年12月31日 発行人 松尾英城

発行 真宗大谷派同和関係寺院協議会 真宗大谷派解放運動推進本部内「同関協」事務局  
〒600-8164 京都市下京区上柳町199 ☎ 075・371・9247

会費納入のお願い  
(年会費5,000円)



[ 口座番号 ] (ゆうちょ) 01010-6-2770

[ 口座名 ] ドウワカンケイジインキョウウカイ  
同和関係寺院協議会





2022年7月20日、しんらん交流館大谷ホールで2022年度総会を開催した。

冒頭の松尾英城会長の挨拶は、自身の思いをより明確に伝えたいと、例年になく総会資料の中に挨拶文を掲載し、それを読み上げられる形で行われた。その中には、「同関協」として明年に控える慶讃事業に対する取り組み状況の報告があり、「是旃陀羅」「宗務改革」等の課題への取り組みに対する宗務当局への願いやお尋ね、近く「同関協」50周年を迎えるにあたっての思いを話された。

宗門からは木越渉宗務総長と尾畑英和解放運動推進本部長がご臨席され、それぞれご挨拶をいただいた。木越渉宗務総長は、金沢の「真宗学院」を立ち上げられた時の思い、部落解放同盟広島県連合会元委員長の小森龍邦さんとの思い出を織り交ぜながら、松尾会長のお尋ねに少しでも応えられるように話された。

総会では深溝暁さん(九州教区)が議長に選出された。スムーズな議事進行で各議案の審議・承認がなされた。特に、議案第3号では、「第4条 会員の入会について」が別記のとおり改訂が承認され、新役員では3役(会長・副会長・会計)の留任と下記のとおり役員があらためて選出・承認となった。

報告事項として、「同関協」の慶讃事業について「記念大会部会」「奉仕団部会」「発行部会」それぞれから現在の進捗状況が報告された。

総会終了後の学習会では、1989年の「真宗大谷派糾弾会」の映像を視聴し、忘れてはならない今の課題として共有した。

なお、残念ながら今年も総会後の懇親会は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、見送られた。

## 2022年度総会議案

- 議案第一号 二〇二一年度事業報告
- 議案第二号 二〇二一年度決算書並びに監査報告
- 議案第三号 「同関協」規程の一部変更について
- 議案第四号 任期満了に伴う役員選出について
- 議案第五号 二〇二二年事業計画(案)
- 議案第六号 二〇二二年予算(案)

## 挨拶

真宗大谷派同和関係寺院協議会 会長

まつお えいじょう

松尾英城



私にとって何故「部落差別問題」を中心課題とするかというと、部落差別問題により宗祖親鸞聖人の門徒として生きるうえで忘れてはならない「御同朋御同行」の精神に背き続け、その精神を見失っているという事実が気づかされたからです。

ただ、その気づきは自覚的なものではなく、外からの指摘、つまり、差別を受け続けてきた方々からの真の同朋教団を願う悲痛な叫びである「糾弾」による覚醒です。故に、どこか私たちの意識の底に「やらされている」というおもいが、現宗門内の諸状況を見るとき、今なお消えることなく沈黙し続けているのではないかと感じます。「糾弾」を縁としたとはいえ、気づかされたことは事実ですから、その後の歩みは自主的・主体的であるべきでしょう。「いまま糾弾中だ」という言葉の重さを感じております。

「同関協」は、宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要厳修にあたり、「あなた、人間忘れていませんか?」共に、朋に、友に生き遇いましょう」をテーマとして掲げ、「是旃陀羅」問題の解決への道筋が見出せない限り、法要が慶讃法要にならないという思いから、「是旃陀羅」問題を課題として差別の克服(人間性の回復)を果たす」ということを事業方針として進めております。具体的事業内容としては「記念大会」「奉仕団」「記念冊子発行」の三部会を立ち上げました。現在担当の部会員さんたちにより、鋭意計画が進められております。

テーマと事業に込めた願いは、差別からの解放を願求し、人間回復を志望し続けてこられた先輩たちの思いを継承した私たちの心からの叫びを凝縮した形で、宗門内外に一石を投じることです。また、それは「わたし自身の差別構造に向かうもの」でもあるのです。なぜなら私自身が、門徒方の前で『観経』を誦読してきたからです。この問題を「門徒方と具体的に、どのように取り組んでいけるか」ということが最重要課題としてあると思います。

ともに悩み、ともに一歩を踏み出したものです。

## 真宗大谷派同和関係寺院協議会規程の一部変更について

## ① 第4条 会員の入会について

〈現〉(会員)

第4条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって会員とする。

(3)真宗大谷派の僧侶であって協議会の目的に賛同し入会を希望する者。ただし、この場合は、入会届を会長に提出し、第5条第1項第1号から第5号の役員の同意を得なければならない。

2 上項第3号の同意を得た会員については、次の総会において報告するものとする。

3 会員は、第9条第2項に定める会費を納入しなければならない。

〈変更後〉(会員)

第4条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって会員とする。

(3)真宗大谷派の僧侶であって協議会の目的に賛同し入会を希望する者。

2 上項第1号から第3号の者は、入会届を会長に提出し、第5条第1項第1号から第5号の役員の同意を得なければならない。

3 上項の同意を得た会員については、次の総会において報告するものとする。

4 会員は、第9条第2項に定める会費を納入しなければならない。



監査

岡崎 真澄  
齊藤 恵

専門委員

保井 秀孝  
小幡 智博  
棕田 隆知  
岡田 克也  
光内 真也  
岩尾 豊文  
深溝 暁

常任委員

三好 龍温  
片山 寛隆  
上寺 和親  
吉田 環樹  
浜口 和也  
草野 等  
菊池 成明

会計

高岡 聖道  
米澤 典之  
川端 裕敬

副会長

松尾 英城  
川端 裕敬

新役員

松尾 英城



## 2022年度 事業計画・予算

《2022年》		《2023年》	
7月13日	2021年度会計監査①	1月 日	第5回発行部会
15日	2021年度会計監査②	日	第5回記念大会部会
20日	2022年度総会	2月 日	第6回発行部会
21日	第1回常任・専門委員会	日	第6回記念大会部会
21日	第1回法要実行委員会	日	慶讃事業パンフレット発行
8月 1日	第1回記念大会部会	3月 日	第7回記念大会部会
日	第1回奉仕団部会	日	第3回法要実行委員会
日	第1回発行部会	4月12日	慶讃法要記念大会
9月 8日	第1回『同関協だより』第65号編集会議	日	第1回『同関協だより』第66号編集会議
日	第2回記念大会部会	5月 日	第2回常任委員会
日	第2回発行部会	日	第2回『同関協だより』第66号編集会議
10月 4日	第2回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団(～5日)	6月 日	第5回三役会(＊)
日	第3回記念大会部会	日	第2回常任・専門委員会
日	第3回発行部会	日	第3回『同関協だより』第66号編集会議
11月 2日	第2回『同関協だより』第65号編集会議	30日	『同関協だより』第66号発行
日	第4回記念大会部会		
日	第4回発行部会	☆	三役会 随時
日	第2回奉仕団部会	☆	各ブロック協議会 随時
12月 日	第1回常任委員会	☆	各作業部会 随時
日	第2回法要実行委員会		
13日	第3回『同関協だより』第65号編集会議		
31日	『同関協だより』第65号発行	(＊)	リモート会議
	慶讃事業記念大会ポスター発行		

2022年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 予算書

自 2022 年 7 月 1 日 至 2023 年 6 月 30 日

歳入の部	2,317,000 円
歳出の部	2,317,000 円

歳入

項	目	歳入項目	予算額	前年度予算額	比較増減(△減)	備 考
1	1	会費	600,000	600,000	0	@5,000円*120カ寺
2	1	本山助成金	1,500,000	1,700,000	△ 200,000	
3	1	繰越金	216,104	1,552,012	△ 1,335,908	前年度より繰越金
4	1	雑収入	896	988	△ 92	銀行利息
		合計	2,317,000	3,853,000	△ 1,536,000	

歲出

項 目	歳出項目	予算額	前年度予算額	比較増減 (△減)	備 考
1	会議費	1,000,000	1,800,000	△ 800,000	
	1 総会費	300,000	600,000	△ 300,000	
	2 会議費	700,000	1,200,000	△ 500,000	三役・常任・常任・専門・法要実行各委員会、会計監査
2	事業費	750,000	1,050,000	△ 300,000	
	1 組織拡充費	250,000	250,000	0	第2回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団
	2 会報費	500,000	800,000	△ 300,000	『同関協だより』発行・編集会議
3	ブロック協議会費	150,000	400,000	△ 250,000	
	1 助成費	150,000	300,000	△ 150,000	@50,000 *3ブロック
	2 聞き取り調査費	0	100,000	△ 100,000	
4	事務局費	210,000	390,000	△ 180,000	
	1 事務局運営費	110,000	270,000	△ 160,000	
	2 発送費	100,000	120,000	△ 20,000	
5	積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
	1 積立金会計回付金	150,000	150,000	0	2017年度より積立
6	予備費	57,000	63,000	△ 6,000	
	1 予備費	57,000	63,000	△ 6,000	
	合計	2,317,000	3,853,000	△ 1,536,000	

## 2021年度 事業報告・決算

《2021年》	《2022年》
7月 5日 2020年度会計監査①	1月24日 宗務総長面会（意見書提出）
12日 2020年度会計監査②	1月31日 第4回奉仕団部会（＊）
19日 2021年度総会	2月18日 第5回奉仕団部会（＊）
20日 第1回常任・専門委員会	聞き取り調査（コロナウィルス感染予防対策により中止）
20日 第1回法要実行委員会	3月 8日 第1回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団（～9日）
9月 8日 第2回法要実行委員会（＊）	4月 5日 第6回奉仕団部会（＊）
8日 第1回『同関協だより』第63号編集会議（＊）	11日 第4回法要実行委員会
10月 5日 第1回奉仕団部会（＊）	13日 第1回『同関協だより』第64号編集会議
20日 第2回奉仕団部会	5月12日 第2回常任委員会
20日 第2回『同関協だより』第63号編集会議	13日 第2回記念大会部会
11月 8日 第1回発行部会	24日 第2回『同関協だより』第64号編集会議
15日 第3回奉仕団部会（＊）	28日 美作騒擾百五十回忌法要（～29日）
16日 第1回記念大会部会	29日 小森龍邦さんを偲ぶ会
12月13日 第2回発行部会	6月13日 第2回常任・専門委員会
13日 第1回常任委員会	14日 第3回記念大会部会
13日 第3回法要実行委員会	23日 第3回発行部会（＊）
13日 第3回『同関協だより』第63号編集会議	23日 第4回記念大会部会
31日 『同関協だより』第63号発行	29日 第3回『同関協だより』第64号編集会議
	30日 『同関協だより』第64号発行
☆ 三役会 7/13・8/3・11/22・11/30・12/2（＊）	☆ 三役会 3/28・5/6・6/7・6/16・6/23（＊）
☆ 各ブロック協議会	☆ 各ブロック協議会
（＊） リモート会議	（＊） リモート会議

## 2021年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 決算書

自 2021年7月1日 至 2022年6月30日

歳入の部	3,737,024 円
歳出の部	3,520,920 円
歳入歳出差引剰余金	216,104 円

歳入

項	目	歳入項目	予算額	収入額	比較増減(△増)	備 考
1	1	会費	600,000	485,000	115,000	@5,000*96カ寺・講読料@1,000*5
2	1	本山助成金	1,700,000	1,700,000	0	
3	1	繰越金	1,552,012	1,552,012	0	前年度より繰越金
4	1	雑収入	988	12	976	銀行利息
		合計	3,853,000	3,737,024	115,976	

歲出

項	目	歳出項目	予算額	決算額	比較増減(△増)	備 考
1		会議費	1,800,000	1,890,080	△ 90,080	
	1	総会費	600,000	549,320	50,680	
	2	会議費	1,200,000	1,340,760	△ 140,760	三役・常任・常任・専門・法要実行各委員会、会計監査
2		事業費	1,050,000	950,490	99,510	
	1	組織拡充費	250,000	481,600	△ 231,600	第1回「是施陀羅」問題を考える奉仕団
	2	会報費	800,000	468,890	331,110	『同関協だより』発行、編集会議
3		ブロック協議会費	400,000	336,920	63,080	
	1	助成費	300,000	100,440	199,560	100,000×九州・沖縄ブロック
	2	聞き取り調査費	100,000	236,480	△ 136,480	美作騒擾150回忌法要
4		事務局費	390,000	157,072	232,928	
	1	事務局運営費	270,000	48,652	221,348	ZOOMライセンス 等
	2	発送費	120,000	108,420	11,580	
5		積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
	1	積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
6		予備費	63,000	36,358	26,642	
	1	予備費	63,000	36,358	26,642	美作騒擾150回忌法要お供、弔電
		合計	3,853,000	3,520,920	332,080	

積立金

積立金会計	2020年度繰越金	600,000 円	
	回付受金	150,000 円	
	合計	750,000 円	2021年度 残高



慶讃法要お待ち受け

## 第2回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団

「同関協」慶讃事業方針 「是旃陀羅」問題を課題として差別の克服（人間性の回復）を果たす



▲座談の様子



▲お夕事の感話▲



教団全体として「是旃陀羅」問題の取り組みが、大事な課題と受け止められていないのではないかと。たとえ僧侶の間で課題となっても、それだけでは意味をなさず、ご門徒と一緒に考えて、課題を共有することが大事であり、その方法を考えなければいけない。

第一回奉仕団で『観経』を「不読」か「読誦」かの二者択一の議論ではなく、「読めない」との思いで確認・共有されてきたが、関係寺院も含め住職が差別に苦しむご門徒の前で、今までこの問題に気づかず読誦してきた経過がある。そのことをいかに表明するのか。表明したことでご門徒と溝を作るのではなく、そこから共に出発できるような土台をどのように構築し、表白するかが大事になる。ご門徒とどう手を取り合ってこの問題を構築していくかの座談会になってほしいと課題提起された。

奉仕団部会の浜口和也チーフからは、①「読めない」という姿勢・共通認識から、具体的にどのように「同関協」としての基本姿勢を表明するのか、②ご門徒との関わりの中で「是旃陀羅」問題（『観経』）を教学的・真宗の教えとしてどう共有していくか、この二点を座談のテーマに絞っていくことを確認し、座談会はスタートした。

三班に分けられた座談会では、「今回の基本姿勢表明は、誰に対してされるものなのか」、「無自覚に『観経』を読んできた者として、ご門徒に対する「謝意」が示されるべきである」、「法要・儀式における読誦の方途、仏説としての教学的意義の明確化が必要なのではなからうか」、「是旃陀羅」の言葉により、差別が現在進行形で継続し、読誦により心が痛む方がおられる現状は放置できないので、一旦、不拝読にして經典からの削除の課題も含め、教団内で広く議論すべき



▲記念撮影

二〇二二年十月四日～五日にかけて「同関協」第二回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団を、宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃事業の一環として開催した。三月の第一回奉仕団に引き続き、「同関協」元会長の片山寛隆氏を同朋会館教導に「同関協」会員十七名が出席し、一泊二日で「是旃陀羅」問題を考えていった。

▼和敬堂玄関



年の歩みから、今後に影響を与えるものになってほしいとの挨拶から始まった。

片山教導は、三月の第一回奉仕団から現在までの「是旃陀羅」問題に関する宗門内の経過を振り返られた。『同朋新聞』五月号に掲載された「全国水平社創立百周年」にあたって「是旃陀羅」問題についてのお詫びと決意」で、ご門徒からの反応があったのか、特に関係寺院のご住職への問いかけや反応はあったのか。もし、無かったとすれば、反応が無かったとするような今までの同朋会運動は、いったいどういったものだったのか。

ご門徒に『同朋新聞』を四月号まで配布していた住職が、五月号の内容を読んで配布しなかったという状況は考えられないだろうか。教区内やお寺で波風が立たず、教団内でも各部所は自分の手元から離れたらそれでおしまいとなり、

だ、「不拝読は、『観経』の依用の停止なのか、「是旃陀羅」の文言を不拝読にするのか、関連して『観経和讃』等の取り扱いはどうするのか」、「基本姿勢の表明による拝読停止という具体的な行動により、その目指すところを明確にしなければいけない」といった意見が出され、全体会でも議論された。

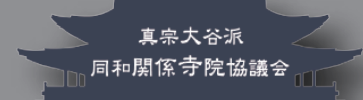
また、儀式・教学・教化の課題として、①『現代の聖典』改訂と継続学習の促進が必要、②宗派発行予定の「是旃陀羅」問題に関する「教化冊子」の早期発行と使用啓発が必要、③現在の歴史認識に基づく『仏の名のもとに』の改訂が必要ではないか、等が全体会で挙げられていた。

今回の奉仕団では、時間的な制限もあり、具体的な基本姿勢の表明文書作成までは至らなかった。今後、奉仕団で出たさまざまな意見をベースに、法要委員会・記念大会部会等で検討・肉付けを行い、二〇二三年四月十二日に計画されている宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要の「同関協」の記念大会に合わせ、「同関協」の慶讃法要テーマである「あなた 人間 忘れていませんか」の思いも含め、「同関協」の基本姿勢の表明を出していくことが確認され、奉仕団を終えた。

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃テーマ

あなた 人間 忘れていませんか？

共に、朋に、友に生き遇いましょう





# 美作騒擾 一五〇回忌

岡山県津山市



二〇二三年五月二十八日

■ 美作騒擾一五〇回忌法要 三浦公会堂

■ シンポジウム 近代の民衆暴力からみた美作騒擾 教本寺

五月二十九日

■ 追悼の集い グリーンヒルズ津山リージョンセンター

わりなく、被害者も加害者も共に救われていく道を願わずにはおられない。

現在でもこの地域では、被害者、加害者のそれぞれの子孫が生活しており、それぞれに複雑な思いと、できれば事件には触れられたくないという思いが入り混じっていると聞か、決して風化させて良い問題ではなく、人間の持つ残忍性や差別意識によりいつでも起こりうる事件であることを後世に伝えることが、被害に遭われた方への何よりの甲いであると感じた。

また、同日は、午前九時にJR津山駅に集合し、マイクロバス二台に分乗して、「追悼の道行き」一行と共に、「同関協」会員有志が騒擾の現場となった現地を訪れ、献花を捧げた。



シンポジウム

近代の民衆暴力からみた美作騒擾

▲上杉聡さん ▼藤野弘子さん



法要後、会場を津山市の教本寺へ移

して、「追悼の道行き」一行主催による「近代の民衆暴力からみた美作騒擾」と題したシンポジウムが開催され、第一部、早稲田大学教授藤野弘子さんによる「民衆の姿から見通す近代の暴力性」についての講演が行われた。第二部として、元大阪市立大学教授上杉聡さんによる「美作騒擾と朝鮮人虐殺の深層をつなぐ」と題した講演が行われた。

最後に上杉さんは、「これまで十年間にわたり、「追悼の道行き」として美作騒擾を風化させないための取り組み、掘り起こし、歴史検証を行ってきたが、まだまだ道半ばで、これで十分ということはない。今後は、この大切な課題をどのように次の世代へと引き継いでいく

二〇二三年五月二十八日午後一時三〇分より、岡山県津山市三浦公会堂において、美作騒擾一五〇回忌法要が勤修された。

法要は、被害者の手次寺である教福寺住職佐々木尚文さん及び本教寺候補衆徒樺葉大導さんが中心となり、「同関協」から代表五名が出仕して勤められた。また、三浦町内の方約二十名及び加茂人権問題研究会、「追悼の道行き」一行の方々約二十五名が参列した。「追悼の道行き」とは、犠牲となられた方々に思いを馳せ、美作騒擾の調査・研究に取り組んでいる団体である。

「同関協」では、二〇一九年の現地研修会において、現地を訪れ、美作騒擾について学んだことを縁として、この度の法要を共に勤めた。

「美作騒擾」とは、一八七三(明治六)年五月二十八日、二十九日に美作(現・津山市)で起きた事件であり、今年百五十回忌にあたる。

事の発端は、一八七二(明治四)年「賤民(部落)制度を廃止する太政官布告」「(賤民廃止令)」により、江戸時代の身分制度である「穢多」と呼ばれる賤民身分が撤廃され、「平民」とされたことである。

しかし、それまでの身分制度において

のかが課題である」と締めくくられた。

翌日五月二十九日には、グリーンヒルズ津山リージョンセンターを会場に「美作騒擾一五〇年追悼の集い」が開催された。この集いの主催は、「美作騒擾一五〇年追悼の集い実行委員会」によるもので、その構成団体は、「追悼の道行き」一行・真宗大谷派同和関係寺院協議会・教本寺・教福寺・岡山県人権教育研究協議会・津山市・津山市教育委員会」が名を連ねる。

「追悼の集い」では、上杉聡さんによる「美作騒擾から一五〇年 いまをどう生きたか」と題した基調講演にはじまり、黙祷、引き続きパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、進行役を外川正明さん(京都教育大学、名誉教授)が務められ、地元市民を代表して原田泰造さん(加茂人権問題研究会代表)、宗教者として阪本仁さん(真宗大谷派解放運動推進本部本部委員)、教育者の立場で難波確夫さん(岡山県人権教育研究協議会前会長)らをパネリストに意見交換が行われた。

集いの最後に「人を人と思わないで傷つける過ちを

は、「穢多」身分の者は、農民が道を通るときは、道をあけて、その場で土下座をさせられていた。また、農民の家を訪ねて行っても、家に上がることは許されず、土間に通されるといった扱いを受けていた。食事や洗面も同じ所ではできず、ひと目で身分がわかるように着る服や髪型も厳しく制限されていた。

そういった身分が撤廃され、「平民」と同等の身分となったが、差別していた側の平民(農民)は、平等になっただけなのに、自分たちの権利を侵されたと思ひ込み、自分たちが侮辱されたを受け取ったため、今までの扱いを拒否する被差別部落を襲った事件である。

それはとても凄惨な事件で、一揆(騒擾)に参加しない家の者は家に火を付けると言って脅され、二万人以上の農民が参加したと言われている。

そして襲われた被差別部落では、一歳の赤子から七十九歳の老人まで、実に十八名もの尊い命が奪われた。この事件においては、加害者側の方も、後に裁判にかけてられ、多くの方が斬罪となり亡くなっている。

法要の最後に教福寺住職佐々木尚文さんの法話を聞いて、様々な思いがある中で、差別する側もされる側も、人間性を奪われる出来事であることには変



追悼の道行き

二度と繰り返さない」「目の前の差別を制止することのできる自分であること」をめぐし、これから生きていくことを誓います。」という宣誓と、「この事実を歴史として残し、子どもたち次世代に、これからも伝え続けていくことをすべての人々に訴えたいと思います。」という願いを参加者一同の総意として確認され、閉会となった。

編集委員 治田 裕臣



美作騒擾150年 追悼の集い  
パネルディスカッション



## 美作騷擾 150 回忌をお勤めして

美作騷擾のことは、門徒さんとお参りで顔を合わせる中で、うちの村が焼かれたことがある、というような話を聞いていました。

はじめて聞いた時には、自分の育った地域が、襲った側ではなく、尊厳を持って抵抗し戦った側で良かったと思いました。そこで思考停止している私がいました。

当然、殺害された方に想いを馳せればそんなことは言えませんが、事件を自分の都合の良い風に受け止めることで、悲しみを悲しみとして受け止められていない私がいました。

そのことを教えてくれたのは上杉聰先生です。

美作騷擾の記録の調査に来られた時、騷擾の記録を確認後、目に涙をためて、「もう少ししたら 150 回忌になりますね。住職はどう勤められるのですか？」と尋ねられました。

その問いに、「施主がどなたになるかわからないので、わかりません」と、自分の事として応えられなかったことを、住職を勤める者としてずっと後悔しています。

その数年後、上杉先生が追悼の道行きを始められていることをお聞きし、参加させていただくようになりました。

そこに集う人たちは、美作騷擾に思いを馳せ、悲しみ、二度と同じ過ちを繰り返さない為に歩む人たちでした。

今年、その人たちと共に 150 回忌法要を勤めることができました。

表白では、

150 年前に起きたこの事件を、風化させることなく伝えてくださった諸先輩方の想いによりこの法要を勤めることができます。

感謝と共に、受け取った責任、伝えていく責任を強く感ずるところであります。

法要を勤めるにあたり、先達が残してくださった、「亡くなった者の心に十分報いることが出来たと思わない」

「死んでいった者への悲しみをどこにおいてよいかわからない」

という思いに、どう応えていけるのか、改めて、悲しみを悲しみとして受け止めつつ、「人を人と思わないで傷つける過ちを二度と繰り返さないこと」を誓い、法要勤修の意義として確かめるものであります。

と読ませていただきました。

騷擾に想いを馳せ、向き合い続けていくことで、人を人と思わないで傷つける過ちを二度と繰り返さないこと、人と人が水平に出会える社会の顕現を目指していきたいと思います。

教福寺 佐々木尚文

内容の回覧板を回して、ご確認ください。

そして当日、公会堂にて町内の方々と、騷擾に想いを馳せ歩んで来られた方々と共に、命を奪われた 18 人の法名軸を前に 150 回忌法要を勤めることができました。法要に集い、さまざまな想いを抱えながら、それでも共に一つの場所に集い会することができました。また、法要に参列された方だけでなく、今までも、そして今も騷擾のことを伝え続け、受け止め続けた方々がおられたことを忘れてはならないと思いました。そのように歩んでこられた方々と出会い、そして町内の方々と向き合う中で、共に法要を執り行うことができ、これからも私の事として騷擾に想いを馳せて、縁ある人と共に供養し、人の尊厳を奪うような悲しみを二度と繰り返さないことをめざして歩みたいと思います。

後日、両寺院で公会堂を使用させていただき法要を執り行わせていただいたことなどに対して、改めて町内会長にご挨拶にお伺いいたしました。そして法要についてのご感想などをお聞きする中、ふと町内会長が仰られた「法要の写真を公会堂に飾ってはどうか」の一言が、今も心に残っています。

教本寺 樺葉大導

## 報告

### 小森龍邦さんを偲ぶ会 宗務総長追悼スピーチ

二〇二三年五月二十九日(日) 府中市文化センター

二〇二二年二月二十六日にご逝去された小森龍邦さんを偲ぶ会が、新型コロナウイルスの感染拡大で二度の延期を経て開催され、「同関協」の有志が参会しました。偲ぶ会では、真宗大谷派木越渉宗務総長が追悼のスピーチをされましたのでここに掲載します。(編集委員 浜口和也)

小森先生、お久しぶりでございます。真宗大谷派・東本願寺の木越でございます。

実は私が先生を一番最初に拝見できたのは、今からちょうど三十三年前ですが、全推協叢書『同朋社会の顕現』差別事件をきっかけとする第一回真宗大谷派糾弾会において、これは東本願寺で行われたわけでありすけれども、その当時私は三十二歳。大谷大学を卒業し、故郷に帰り、金沢真宗学院というところで教鞭をとっておりました。

父親からある日、「宗門の姿勢が問われる非常に大切な会がある」、そういうことを聞かされまして、実は父親に頼み込んでその糾弾会に行きました。本山の大きな会場で糾弾会が行われたわけですが、私も、私は別室でその様子を拝聴しておりました。そこで、小森先生は先頭に立って糾弾をなさっておられました。

「訓覇さん、訓覇さん」、途中で「訓覇先生、なんでわからないのよ！」

後で聞いたんですけれども、先生と訓覇先生とは非常に深い繋がりがあった、ということをお聞きしております。

「なんでわからないんだ、あなたが口癖のようにおっしゃる、自己の確立、自己の信

念を確立していく。自己とは何ぞや、それは確かに魅力的な言葉だけれど、なんで差別問題をやっている暇がないというふうなことが言えるのか。如来・仏陀が、衆生の苦悩を課題とし、その救済を望まれた、その仏が課題とすることをなぜ自らの課題にしないのか。こういう非常に鋭い問いを投げかけておられました。と同時に、びっくりしたのは、そのあと、先生は言葉を繋いで「仏陀の課題を、信心の課題にする。それが信仰のあり方ではないのか」。あの質問をされながら、ほんとに応えに窮しておられる本山の人々に対して、正解を示しておられた。そういう先生の姿に、非常に大きな感動を覚えました。三十二歳という若さでしたけれども、先生のまつぐさ、厳しき、そして誰よりも温かみを持ったその人格に、大いに感動を覚えたことは、今でも鮮明に覚えております。

ちょうど今から八年前に、私は東本願寺の責任役員・参務・解放運動推進部長を拝命いたしました。広島県連に赴き、「是梅陀羅」の課題について、小森先生、そして当時、岡田副委員長、そして広島県連の方から教えを請いに行きました。

その時に先生は、私が「初めまして、木越です」と自己紹介をしますと、先生は「木越さん、あの木越さんの？」って、こうおっしゃったものだから、とっさに「はい。多分そうです。前の総長をしていた木越樹の息子です。父親には、今日、先生とお会いするということを伝えました。そして父親は「小森先生に会いに行くのなら、しっかりと叱られてきなさい」。こういうふうに言われて、ここに参上いたしました」。

こういうふうに申し上げると、先生はほんとに懐かしそうに、目を細めて笑ってくださいました。そういう先生から、やはり我々が課題としなければいけないことを縷々聞かせていただき、そして先生には何度も何度も本山の方に来ていただき、ともに課題に取り組んでいく。「社会の闇、これこそが信仰の課題である」ということ。これを教団あげて自覚的に取り組んでいけるようなそういう施策を待ち望んでおられました。

すぐに、「部落問題等に関する教学委員会」を立ち上げ、そこで報告書を作成し、先生と岡田委員長に報告に行きましたところ、先生は非常に喜んでくださいます。

た。そして何よりも、東本願寺が独自にものを進めるのではなく、小森先生、そして岡田委員長と連絡を取りながら対話を通してこの課題が宗門の課題として永遠に保ち続けることができるように進めていきたいということに非常に大きく賛同していただいたことであります。

今、先生は亡くなりましたけれども、岡田委員長に実際に東本願寺に来ていただき、様々に相談に乗っていただいております。先生が「存命中にこの課題に一応の終止符を打てなかったことは、忸怩たる思いがありますけれども、決して歩みを止めることなく、この課題を持ち続けていくということをここでお願い申し上げます」。

この場に立ちまして、私は先生からお尻を叩かれておるような感覚に襲われます。「木越君、一緒に立たんかね、親鸞の横にすくつと立たんかね」、こういうふうな励まされておるような気になりました。

このような会に出席させていただき、誠に拙い話で恐縮ですが、今後ともよろしくお導きのほどをお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。